

Editorial

今月号の特集について

藤野善久

産業医科大学産業生態科学研究所 環境疫学研究室 教授

「女性版骨太の方針2023」(2023年6月13日閣議決定)において、女性の生涯にわたる健康への支援が表明されて以来、企業や学校などさまざまな場で、月経困難症や更年期障害への取り組みに対する関心が高まっています。今月号の特集では、女性の生涯を通じた健康的な社会生活を支援する立場にある公衆衛生関係者に役立てていただくことを目的に、女性特有の健康問題を整理し、各種の取り組みを紹介します。

特集の前半では、わが国における女性の健康に関する施策の歴史的背景やその変遷について解説しています(甲賀論文、森崎・小宮論文)。月経という極めて生物学的な現象が、女性の就労、結婚、出産といった社会経済的な状況によって大きな影響を受け、変化してきたことは、この問題が単なる臨床的課題にとどまらず、公衆衛生的課題でもあることを示しています。また、月経困難症やPMS(月経前症候群)、更年期障害についての概説や、それぞれの症状・治療に関する情報を、公衆衛生関係者向けに解説しています(木内・岩佐・安井論文)。

後半では、さまざまなライフステージにおける女性特有の健康問題について紹介しています。特に、若年層における日常生活に関連する月経の問題については、これまで十分に取り上げられてこなかった分野といえるでしょう(金城・橋脇・栗田論文)。アスリートなど一部の方に限らず、多くの女性が特に学校生活など日常的な場面で経験している困難に対して、どのようなケアや対応が求められるのかについては、公衆衛生関係者として理解しておくべき重要な視点です。

女性特有の健康問題に対する取り組みは、女性が生涯を通じて活躍するための基盤づくりにもつながります。特集内で紹介している2つの論考(西山論文、三宅論文)からは、職場における女性特有の健康課題への対応が、労働生産性の向上や健康経営といった視点からも重要であることがうかがえます。さらに、更年期症状が女性の労働生産性に与える影響について、疫学的なエビデンスも紹介しています(澤本論文)。

特集の締めくくりでは、「フェムテック」について取り上げています(杉本論文)。女性特有の健康課題への新たなアプローチとして、フェムテックへの期待が高まっています。例えば、更年期障害については診断や治療法が医学的に確立されているにもかかわらず、多くの女性が依然として困難を抱えているのが現状です。その背景には、相談しづらい環境や心理的なハードル、加齢に伴う避けられないものといった誤解など、さまざまな要因があります。フェムテックの活用によって、女性自身のヘルスリテラシーの向上やセルフケアの普及、さらには医療との橋渡しになることが期待されています。

本特集が、今後、公衆衛生関係者をはじめとする多くの専門職が、女性のライフステージに応じた健康課題に目を向け、科学的知見と実践の両面から支援が進む一助となることを願っています。